

取組内容	取組の視点	考えられる取組	取組結果の評価・モニタリング他		
				内容	
<p>(1)緊急保全対策(第1,2期計画の継承)</p> <p>目的:2期10年間に於いて検討実施してきた緊急保全対策を継承することで、森林後退を抑制し、森林生態系の保全を目指す。</p>	<p>ニホンジカによる生態系被害が顕著に表れる等、緊急に保全が必要な箇所において対策を講じる</p>	<p>ニホンジカによる生態系被害の抑制、森林後退の箇所における樹木減少の抑制、生物多様性の保全再生に着目して、緊急に保全が必要として抽出した箇所において、防鹿柵の設置を検討・実施する。</p>	<p>大規模防鹿柵の設置</p>	<p>防鹿柵設置による植生の回復状況及び植生の回復に伴う動物の回復状況の把握。 特にスズタケ保護を目的として設置される防鹿柵内で、スズタケの成長に伴い出現が期待されるコマドリの生息状況の把握。 生態系における生物間相互作用と環境指標性に留意し、必要に応じて自然再生上の目標・課題と関連した調査の検討・実施。</p>	<p>定点写真撮影 開花結実(フェノロジー)・訪花昆虫調査 毎木調査・植生調査 スズタケ生育地についてはササの稈高のモニタリング 防鹿柵内植物相調査 防鹿柵内動物群集調査</p>
		<p>溪流環境の保全に着目した防鹿柵の設置を検討・実施する。</p>	<p>生物多様性保全防鹿柵の設置</p>		
		<p>下層植生がミヤコザサに覆われている等防鹿柵の設置による効果が見込めない箇所においては、母樹等の剥皮防止を目的として樹脂製ネットの巻き付けを実施(トウヒ、ウラジロモミ、コメツガ、ヒノキ等を対象)する。 また、既設金属製ネットや設置後劣化したネットについて巻き直しを実施する。</p>	<p>剥皮防止用ネットの設置・更新</p>	<p>樹幹着生性蘚苔類に対して樹脂製ネットに変更した効果の把握。</p>	<p>樹幹着生性蘚苔類モニタリング</p>
	<p>人の利用に起因する自然環境の衰退を抑制する。</p>	<p>人の意識的行動による生態系被害を防止する。</p>	<p>利用者マナーの向上</p>	<p>希少植物の盗採状況の把握。</p>	<p>希少植物モニタリング</p>
		<p>歩道・道標整備による歩行範囲の明確化等により植生被害の拡大を防止する。</p>	<p>歩道整備・道標整備</p>	<p>歩道周辺の踏み込みによる植生への影響、歩道の複線化の現況把握。</p>	<p>定点写真撮影 歩道外への踏み込み、複線化の状況</p>

取組内容	取組の視点	考えられる取組	取組結果の評価・モニタリング他		
				内容	
<p>(2) 森林更新環境の場の保全・創出</p> <p>目的: 森林更新の阻害要因を取り除く等、基礎条件を整えることにより、生物多様性の保全を行いつつ、森林更新環境を保全・創出し、樹木実生が定着し、後継樹が健全に育成される森林更新環境の回復を目指す。</p>	<p>林冠ギャップ地、疎林部といった森林更新環境の場等において、生物多様性の保全を行いつつ、後継樹が健全に生育できる森林更新環境を整えるための対策を講じる。</p>	<p>森林更新が期待される林冠ギャップ地での実生定着と稚樹の成長促進を目的として、小規模防鹿柵(パッチディフェンス)を設置する。</p>	<p>小規模防鹿柵(パッチディフェンス)の設置</p>	<p>稚樹の生育状況や下層植生の回復状況の把握。</p>	<p>既存調査地点における稚樹調査 定点写真撮影</p>
		<p>生物多様性の保全・再生に着目した生物多様性保全防鹿柵を設置する。</p>	<p>生物多様性保全防鹿柵の設置</p>	<p>防鹿柵設置による植生の回復状況及び植生の回復に伴う動物の回復状況の把握。 生態系における生物間相互作用と環境指標性に留意し、必要に応じて自然再生上の目標・課題と関連した調査の検討・実施。</p>	<p>定点写真撮影 開花結実(フェノロジー)・訪花昆虫調査 防鹿柵内植物相調査 防鹿柵内動物群集調査</p>
		<p>トウヒ実生の発芽・定着が期待される倒木・根株を保全するために小規模防鹿柵を設置する。 さらにトウヒ稚樹がミヤコザサによる被圧を受ける場合に倒木・根株周辺のササ刈りを実施する。</p>	<p>小規模防鹿柵の設置 ササ刈り</p>	<p>保全を実施したトウヒ実生の発芽・定着状況の把握。</p>	<p>トウヒ実生の生育状況のモニタリング</p>
		<p>自生稚樹の成長促進を目的として稚樹保護柵を設置する。</p>	<p>稚樹保護柵の設置</p>	<p>保護柵設置後の稚樹の生育状況の把握。</p>	<p>樹高、枝張り、樹勢、食痕の有無等のモニタリング</p>
		<p>ミヤコザサ被度の高い防鹿柵内の実生・稚樹の生育促進を目的として対象木周辺のミヤコザサの坪刈りを実施する。</p>	<p>坪刈り</p>	<p>坪刈りを実施した自生稚樹の生育状況の把握。</p>	<p>樹高、樹勢のモニタリング</p>
		<p>ササ刈り、地掻き、倒木設置、自生稚樹保護、小規模防鹿柵設置等を組み合わせることで更新環境の創出につながる対策の試験を実施する。</p>	<p>表層土対策(表層土除去・地掻き) 例:【地表処理】 実生がなく、種子供給の可能性の高い疎林部等において、地掻きの実施と小規模防鹿柵の設置を組み合わせる。</p> <p>倒木の設置 例:【倒木設置試験】 東大台の疎林部のミヤコザサ草地において倒木設置地点を選定する。基本的には既存の倒木を利用するものとする。試験対象とする倒木については、蘚苔類の定着基質となるようなネットやロープを設置する。</p>	<p>効果的な地表処理の実施手法の検討。</p> <p>実生の発芽・定着環境の整備としての倒木の設置手法の検討。</p>	<p>地表処理試験の実施</p> <p>倒木設置試験の実施</p>
		<p>疎林部にある更新環境として良好な倒木根株等に蘚苔類の移植を実施する。</p>	<p>蘚苔類の移植 例:【蘚苔類生育促進試験】 「倒木設置試験」と合わせて実施。 ※試験内容については検討中。</p>	<p>既存の倒木への蘚苔類生育を促す手法の検討。</p>	<p>倒木への蘚苔類生育促進試験の実施</p>

取組内容	取組の視点	考えられる取組		取組結果の評価・モニタリング他	
				内容	
<p>(3)ニホンジカ個体群の保護管理</p> <p>目的:健全な森林更新がなされるよう、ニホンジカ個体群を適正な生息密度へ誘導する。</p>	<p>ニホンジカ個体群を適正な生息密度へ誘導・維持するための個体数調整を実施する。</p>	<p>森林生態系に対する被害が発生しないよう大台ヶ原ニホンジカ特定鳥獣保護管理計画に基づき個体数調整を実施する。</p> <p>また、奈良県、三重県、上北山村、川上村、大台町、林野庁との連携による広域的な個体群保護管理について検討する。</p>	<p>ニホンジカ個体数調整 広域的個体群保護管理の検討</p>	<p>ニホンジカ生息状況の変化の把握。</p> <p>植生の変化(ササ類の稈高の変化、下層植生の植被率の変化、樹木への剥皮状況の把握。</p>	<p>生息状況調査</p> <p>植生状況調査</p>